

様式第 3 号

会 議 録

会 議 名 (付 属 機 関 等 名)		川西市参画と協働のまちづくり推進会議 令和元年度第4回 A 部会	
事 務 局 (担 当 課)		総合政策部 参画協働課	
開 催 日 時		令和元年 11 月 19 日(火) 午後 6 時 00 分から午後 8 時 20 分	
開 催 場 所		川西市役所 7 階 大会議室	
出 席 者	委 員	藤本真里(部会長)、加門文男、田中真、名木田絢子、西村牧子、 三善知子、久保圭志	
	そ の 他		
	事 務 局	総合政策部参画協働課 課長、課長補佐、同課主任 1 名	
傍聴の可否		可	傍聴者数 0人
傍聴不可・一部不可の 場合は、その理由			
会 議 次 第		1 開 会 2 議 事 (1) A 部会のテーマ 「(地域・市民活動に対して、)やる気があり積極的だが 取り組めていない人を巻き込んでいくには」 3 閉 会	

1 開 会

○事務局

当初、12月全体会で一定のアウトラインを作成し、1～2月で見せ方の検討、3月報告書作成予定としていた。両部会の議論内容、委員からの提案などをふまえて、3月に一定のアウトラインを作成し、4～5月で見せ方の検討、6月に報告書完成とすることも可能である。

2 議 事

(1)「(地域・市民活動に対して、)やる気があり積極的だが取り組めていない人を巻き込んでいくには」

(各委員の意見)

- ・ 着地点はマニュアルを作るのではなく、何らかのアクションにつながるものとする。部会の提案を受けて、市民・行政それぞれの活動が、相乗効果となるような仕掛けが作れないか。
- ・ ここでの議論を委員が自身の団体に持ち帰って、取り組むことも大切だ。
- ・ 既に川西を盛り上げる団体が点在していて、イベントが集中する時期には集客が分散してしまっている。
- ・ ちょっとでも参加してくれる人は貴重、その人の記憶や思い出に残る体験であれば、活動の切っ掛けになる。
- ・ 参加者は一緒にやりづらい人がいないかなど人間関係が気になる、人を募る側は、その点にいかにか根気強く向き合えるかだと思う。
- ・ 参加する人が、最初のハードルを越えるための、ポンと背中を押してくれるようなアドバイス集がいいのではないかな。
- ・ 何かを始めたいという人が気軽に相談できる窓口、マッチングしてくれる窓口がわかる情報があれば。
- ・ 年配の方は、初めての電話など最初の問い合わせのハードルを越えられるイメージがある。若者は電話が苦手、メールやLINEに慣れているイメージだ。

- ・ 参加する方が手間をかけて問い合わせたり、声をかけたりすることを期待してはダメ。募る側が情報を送ったり誘ったりすることが大切だ。
- ・ 「いつもお世話になってます」など丁寧すぎるあいさつも、若い方には面倒なイメージを与える。
- ・ 若い方は気軽さ(フラットな関係・LINE・メール)やハードル(丁寧な受け答え・対面)を下げてあげることがポイントだ。年配の方は礼儀や形式(事前調整や書面对応、電話対応)に気を付けることがポイントだ。
- ・ この部会のノウハウだけでなく、他の活動者のノウハウを蓄積していける仕組みも必要。
- ・ 何かを始めるときに気軽に相談に乗ってくれる行政の窓口があればいい。どこに相談していいかもわからない人が、自分で全てを調べるのは難しい。問い合わせ用のフローチャートなどがあれば便利では。
- ・ 若い方は、若い方の忙しさが分かっているが故に、ボランティアに誘いにくい。
- ・ 全ての人を対象にした提案は難しいのでターゲットを絞る必要がある、フローチャートでパターン分けするなど。
- ・ コミュニティのことを理解していない人は多い、コミュニティと協力したい時にどこに行ったらいいのかもわからない。

(提案の素案)

- ・ ターゲットごとに、活動の最初にハードルになっているコアな部分に対するアドバイスを整理する。
- ・ ある人(子育て中のお母さんで、何かしらつながりを持ちたい)を想定して、ワンシートでその人の課題や悩みを整理する。
- ・ 参加者を募る団体側も、参加者の悩みやハードルになっているポイントが分かることにも意味がある。団体側も参考になる工夫をする。
- ・ 両面仕様のカードで、片面は参加者向け、片面は団体向けで作成する。
- ・ チラシ、電話、HP、LINE、インスタ、Twitterなど多様な媒体をコンテンツやターゲットに応じて使い分ける。

- ・ イラストや写真が中心のイメージで作成する。
- ・ これが完成形でなく、これから更新していけるツールである。

具体的なイメージのターゲットが、最初の一步を踏み出すためのメッセージ

(次回発表に向けて)

- ・ サンプルのシートを2パターンほど作成し、部会長を中心に発表。
- ・ ターゲットを決めて、細かいアドバイスやハードルの部分は追って意見を募る。

(サンプル案)

ターゲット

32 歳、女性、双子(4歳の男の子)のお母さん、子育てに奔走、子どものためのイベントを参加したい(やりたい)、自分の趣味・活動を発表する場が欲しい

ターゲット

63 歳、男性、定年退職直前、定年後の居場所が欲しい、仕事に行っていた時間をどうしよう、趣味・技術(カメラ・習字)を活かしたい人

3 閉 会

第5回は、1月20日(月)、第6回は、2月17日(月)、時間はいずれも18時からで、会場は事務局から追って連絡。